

教室を飛びだして

▼ イシノマキアート はい! スクール

宮城県石巻地域で数年ごとに開催されている総合芸術祭「リボンアート・フェスティバル」。
それに合わせて、地元の中高生がさまざまなアーティストと交流したり、
身近なアート拠点を巡ったりして、芸術に関する知識の輪を広げています。
その取り組みをご紹介します。

校舎は街全体

宮城県石巻地域で2021年、さまざまな芸術家と交流したり、作品を鑑賞したりして、中高生に教室外での学びの機会を提供する「イシノマキアート はい! スクール」が“開校”した。コロナ禍で活動が制限される中、オンラインを活用するなどして、幅広く活動を展開している。

運営の母体となるのは、アート・音楽・食の総合芸術祭「リボンアート・フェスティバル(RAF)」を主催する一般社団法人。RAFは、東日本大震災で被災した宮城県石巻地域を主な舞台に、2017年から開催されてきた。

芸術家と生徒が交流

「イシノマキアート はい! スクール」は、2019年の第2回RAF終了後、出展作家と運営スタッフの間で「地域の学生ともっと接点を持てないか」という話が持ち上がったことでスタートした。

2021年1月から3月にかけてキックオフイベントが行われ、さまざまなプログラムを実施。街歩きイベン

トでは、参加者たちが地域の建築事務所やデザイン事務所、ギャラリーなどを訪ね歩き、活動内容や創作の姿勢を聞いた。参加した中学生は「石巻にはすてきな人や場所があって、震災後に移住した人もたくさんいることを知った」と、地域の魅力を再発見できた様子だった。

そのほか、オタク文化を取り入れた型破りなパフォーマンスで知られる二階堂瞳子さんの講演会(写真2)や、高級車を石焼き芋販売車に改造して走らせる大阪市のアートユニット「Yotta(ヨタ)」のオンライン講義なども行われた。

3月には「Yotta」の石焼き芋販売車が実際に石巻を訪れ(写真1)、有志の市民と交流。その後、オンラインで振り返りトークイベントが催され、参加者からは「最近では街で怪しいものを見る機会も減ったからなのか、石焼き芋販売車を見かけても無視する人が多かったように見えた」「非日常的なもの、常識的なものへの反応を考えるきっかけにもなった」などの感想が挙がった。

2021年8月には第3回RAFが開幕し、「イシノマキアート はい! ス

クール」との連動も模索された。美術作家の廣瀬智央さんが手がけた、空間いっぱいに植物のミントを展示した現代アート作品を、参加者がパソコンの画面を通して鑑賞する試みなどもあった(写真3)。

モヤモヤと向き合う

イベントのほかに、芸術に関する知識を深められるよう、市内の貸本施設「石巻まちの本棚」に専用スペースを常設し(写真4)、芸術関連の書籍や図録を並べている。また、中高生たちが目的を定めずに語り合う「オンライン談話室」も不定期で開催しており、コロナ禍で話す機会が減る中、貴重な場となっている。

活動の根底にあるのは「モヤモヤと向き合う」こと。運営事務局の志村春海さんは、「日常で疑問に思うことがあっても、周囲の反応を気にしてしまい、なかなか言いづらいこともある。学校以外の場所でも、そういった疑問やモヤモヤをおもしろがってくれる人がいることを知ってほしい」と話している。

イシノマキアート はい! スクール
<https://www.ishinomakiarthaischool.com/>



放課後 第 19 回 A R T

- 1／2021年3月、「Yotta」の石焼き芋販売車が石巻を訪れ、有志の市民と交流した。
- 2／2021年2月に開かれた二階堂瞳子さんの講演会。
- 3／2021年8月、廣瀬智央さんが手がけたミントの作品展示をオンラインで鑑賞する様子。
- 4／「石巻まちの本棚」に設けられた「イシノマキアート はい! スクール」の専用書架。